

今月の例会報告



道内初！メロンの水耕栽培／酪農現場の組織づくりとISO取得

農業経営部会では12月は一泊で望年例会を開催しています。同友会では、新しい年を展望し、未来を語り合いたいという意味を込め“望年会”と表しています。今年には新得町屈足で開催、29名が参加しました。

講演は、新得町で道内初のメロンの水耕栽培に成功した(有)友夢牧場 湯浅会長が講演。同社のバイオガス発電の余剰熱を利用し、はら農場 原大知代表(新得町、同友会会員)と共に、2018年より栽培に挑戦。湯浅氏は野菜栽培の経験はまったく無い中、試行錯誤しながら、夏には一回目の収穫を終え、通年出荷と販売を目指して取り組んでいることが報告されました。二人目の講演は、同じく新得町の(有)北広牧場 若杉真吾取締役より、「道内酪農家初のISO22000取得！～スタッフと共に成長する組織へ～」をテーマに報告がありました。同社は1996年に4戸の酪農家が統合して立ち上がり、乳牛約900頭を飼育。法人化をきっかけに、親族外の雇用の割合が増え、次第に社内の統制が取れなくなり、組織や牛群の崩壊が起きてしまいます。このことをきっかけに同社の理念「牛も人も幸せに」が生まれ、ミーティングや面談、5S、マニュアル化、労働環境改善など改革が行われ、次第に、組織化・可視化・共有がなされました。これを体系化すべく道内酪農家では初めての取得となる食品安全マネジメントシステムの国際規格「ISO22000」を取得したことが語られました。

望年会では、参加者が近況や新しい年への展望をスピーチ。二次会では夜遅くまで語り合い、盛会裏に終了いたしました。



↑ 友夢牧場のメロン



↑ 若杉氏(北広牧場)



↑ 湯浅氏(友夢牧場)

魅力と可能性を最大限に発揮
十勝総合振興局 三井局長

12月4日(火)、農業政策グループ企画で、北海道十勝総合振興局 三井局長をお招きした例会を開催しました。2018年4月に着任された三井氏は、経済畑を歩まれ、商社への出向経験もお持ちです。

局長就任後から続々と新規事業を立ち上げ、職員が試食評価を行う「職員モニタリング事業」、外国人観光客向けに十勝で注文した産品を新千歳空港で受け取れる「とかちインバウンド向け販路構築事業」、十勝産ワインの機運を高める「ワインアカデミー十勝」を実施。

振興局の役割にも触れ「職員は2～3年で他地域への異動があるが、地元の皆さんは過去も未来も十勝。果たして何ができるのか？」を考えた時、我々はミツバチとなり花粉(情報)を届け、蜜(価値)を作りたい。『振興局』から『進行局』へ変化したい」と語りました。

123 経営戦略と会計を同時に学べる
MQ戦略ゲーム(MG)

農業経営部会では、昨年より例会でMQ戦略ゲーム(MG)を行っています。MGは、経営シミュレーションゲームの一つで、自らが経営者となって様々な意思決定を繰り返しながら会社を運営していきます。その中で、経営に必要な「戦略思考」を体験的に学ぶと同時に、決算書の作成によって、実務にも役立つ「会計思考」を学ぶことができます。

部会では計3回開催し、農業者を中心に延べ51名が受講しています。レポートで受講する方も多く、若手経営者からベテラン経営者まで幅広い層が集い、ときに教えあいながら学びを深めています。

次回は3月18日(月)～19日(火)に4回目を実施します。

30周年インタビュー記事 新たに4社掲載で計22社に

十勝とやま農場	代表	外山 隆祥さん (12/1掲載)
(株)山本忠信商店	代表取締役	山本 英明さん (12/6掲載)
ペペサーレ帯広店	ストアチーフ	五十嵐大治さん (12/20掲載)
(株)大野ファーム	代表取締役	大野 泰裕さん (1/10掲載)

▼「TOKACHI HARVESTERS」(勝毎電子版「農+ビジネス北海道」内)
<http://agribiz-hokkaido.jp/tokachiharvesters/index.php>

勝毎の農業専門サイト
農+ビジネス北海道
北海道中小企業家同友会とかち支部
農業経営部会 会員紹介企画